Kobe University Repository : Kernel

PDF issue: 2025-06-06

第2分科会（話す1年） ： 題材 矛盾を哲学する ： 目標 漢文の訓読を身に付ける題材について話し合い、身近な例を出せるようになる

中川, 雅道

(Citation)
国語部会報,130:3

(Issue Date)
2022-02-07

(Resource Type)
article

(Version)
Version of Record

(URL)
https://hdl.handle.net/20.500.14094/90009004

第2分科会（話す1年）

題材　矛盾を哲学する

目標　漢文の訓読を身に付ける題材について話し合い、身近な例を出せるようになる

授業者　神戸大学附属中等教育学校　中川雅道教諭

漢文教材「矛盾」を使って訓読のやり方を学び、問いを立ててみたところ、子どもたちからは次のような問いが出され、多数決で傍線の問いが選ばれた。

- ●身近にある矛盾しているものとは
- ●現実で矛盾しているのに共存しているものはあるのか
- ●矛盾を起こさないためには何が必要か
- ●今、どのような場面で矛盾が生じてしまうのか

対話の流れ

「どんなものでも貫く矛と、どんなものでも防ぐ盾は、同時に共存できないことが矛盾なので、この問いを考えました」

「お母さんが家で勉強しなさいと言ってて、お父さんが外で運動しなさいと言ってるときは矛盾みたいだけど、外で運動しながら勉強するとか、共存できないとまでは言えないかも」

「盾と矛、勉強と運動の二つは、物と言葉という違いがあると思って、だから矛盾した物は共存できないってことじゃないかな」

「勉強したいけど、ゲームしたいというような場合は矛盾しているんだろうか?」

「勉強をゲーム感覚でやってる人もいると思います」

「でも、ゲーム感覚の勉強って全然楽しくない気がするんですけど」

「矛盾した言葉はいくらでも存在できるという結論なんじゃないかな」

「矛と盾の場合にも、もしかして試さなくて両手に持っている場合は、共存しているのかも」

「矛盾」について、本文の理解だけにとどまらず、日常の経験の中から矛盾を見つけ、共存の条件を探る対話になった。深く考え込んでいる姿が見られた。

ワークシートに対話の前後の考えを書く欄をつくることで対話による考えの変化を見ることができる。

次の記述例では「矛盾は片方を否定することだから、具体例が思い浮かばない」ところから対話の中で具体例を聞いたことで「わからなくなった」。また「物体と言葉に違いはあるか」という新たな問いを考えだしている。

心地よくわからなくなることは、深く考えた証拠でもある。この後、もう一度矛盾とは何だったのかについて書く活動へとつなげて、単元を終えた。

対話前の考え	対話後の考え
ないと思う。具体的な例が思い浮かばないし、「矛盾」で出てきたように矛盾しているという事は片方が否定されるという事だから。	なんだか色々とよく分からなくなってきた。何が矛盾しているのか、物体と言葉の違いはあるのかなどたくさん疑わしくなってきて、難しいなと思った。